

# 社 会 科

社会科部 佐藤 真樹 樋口 晃  
研究協力者 宮崎 沙織

社会

## 1 育成を目指す資質・能力

社会的事象への深い理解を基に、自ら社会参画する資質・能力

## 2 育成を目指す資質・能力について

本校社会科では、「未来を拓く子ども」を、地球規模で発生している課題の解決に向けた国際協力の在り方や我が国の役割について、より多くの人々が幸せに生活できる方法や自らの現在や将来における関わり方を見いだすことができる子どもと捉えた。そしてその考えは、根拠のないものでなく、事実に基づいたものであることが必要である。そこで、育成を目指す資質・能力を「社会的事象への深い理解を基に、自ら社会参画する資質・能力」とした。「社会的事象への深い理解」とは、概念的知識を獲得し、その価値を認識することである。「自ら社会参画する」とは、社会に生きる多くの人々が公正で平和に生活できる社会に向けた主体的な関わり方を表出することである。これは、小学校社会科で求められる、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することに重なる。資質・能力の三つの柱の具体は以下のとおりである。子どもは社会的な見方・考え方を働かせ、問題を主体的に解決することを通して、三つの柱を相互に関わらせていく。そして、「社会的事象への深い理解を基に、自ら社会参画する資質・能力」が養われると考える。

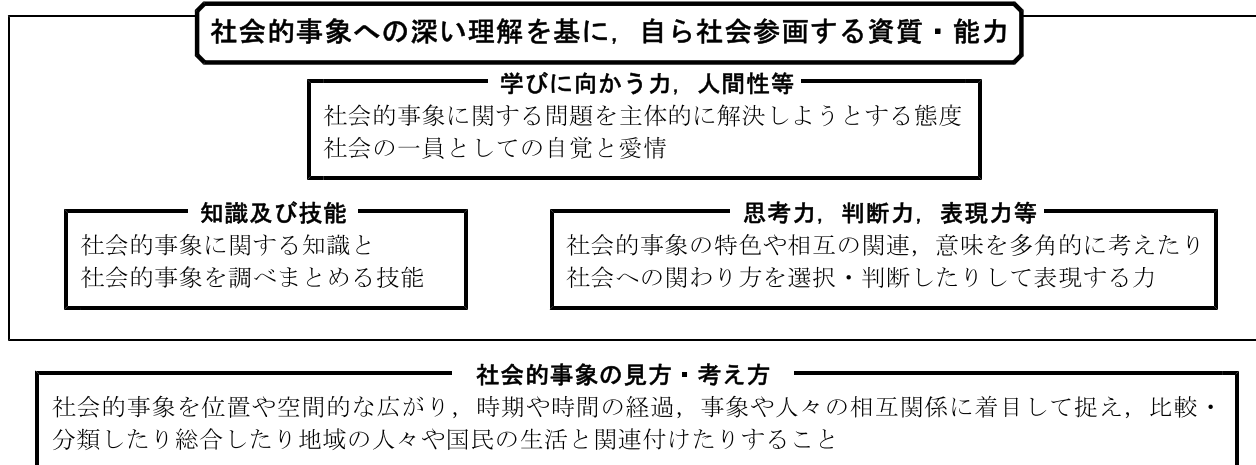


図1 本校社会科が育成を目指す資質・能力の三つの柱と「見方・考え方」

## 3 研究の方向

本校社会科における問題解決的な学習の中で、「社会的事象への深い理解を基に、自ら社会参画する資質・能力」の育成に向け、これまでに次のような学習指導の工夫を行った。

- 調べる観点、予想、調べる方法を一覧にした学習計画表の作成
- 調べた事実を整理することを支援する学習プリントの用意(小集団に1枚を配付する)

その結果、追究への見通しをもち、問題解決に向けて、収集資料に見当をつけて主体的に集める姿

が見られた。また、調べた事実や既有知識を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を自らの考えとして記述・発言する姿が見られた。さらに、友達のことを聞いて、自らの考えを修正する姿も見られた。このような姿が現れたのは、事実や既有知識を選択し、それらを結び付けて共通点や相違点、変化の傾向などの関係性を見いだすことができたからである。そして、このような子どもは、自らの考えを補完・修正、再構成して考えを確かにするを単元を通して繰り返すことで、概念的知識を獲得することにつながったと考えられる。

一方で、「追究する」過程における子どもたちの振り返りの記述には、板書されたまとめを、「わかったこと」としてそのまま書いたり、社会の仕組みや人物やその働きへの関心や驚きに関する記述が少なかったりする傾向も見られた。このような傾向が見られた子どもは、単元の終末において、既習内容を踏まえた自らの社会への関わり方や、学習したことの価値を実感する記述が十分でないことが多かった。上記の子どもは、自らの周りにある仕事や仕組み、現在に至るまでの人々の努力などが社会を維持、発展させたり、自らの生活を支えたりしているという認識が不十分であり、それは、「社会的事象の見方・考え方」を働かせることに課題があったといえる。子どもが、この「見方・考え方」を働かせることにより、子どもが目にしていく事象が社会的事象として認識され、自分の生活と関係があるものとして捉えられるようになる。そこで、本年次は、協働的に学ぶことの一層の充実に加え、「見方・考え方」を働かせて学習できるようにする指導の工夫の点から研究を進めることとした。

## 4 研究内容

### (1) 社会科を学ぶ本質的意義と「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

本校社会科が目指す資質・能力の育成に向け、以下のように、社会科を学ぶ本質的意義と、問題解決的な学習の過程における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿を捉えた。

#### ① 社会科を学ぶ本質的意義

**社会生活における人の営みやその価値を認識し、それを基に社会に生きる多くの人々が公正で平和に生活できる社会に向けた自らの関わり方を考えること**

人は一人では生きていけない。だから、快適で安全に生活するために社会集団を形成し、それぞれが協力することが欠かせない。人はよりよい生活を求めて周囲の環境と関わりながら活動を行ったり、生活・文化を共有、継承し、変容、発展させたりしている。また、個人と集団との関わり、集団と集団との関わりを円滑にするために決まりや仕組みを設けて政治や経済をはじめとする様々な活動を行ったりもしている。このような社会生活における人の営みによって社会は成り立っており、社会を維持、発展させていくためには、一人一人が社会の中で何かしらの役割を担い、他者と関わったり、協力したりしていくことが絶対に必要といえる。社会科は、社会生活における人の営みやその価値を認識し、それを基に社会に生きる多くの人々が公正で平和に生活できる社会に向けた自らの関わり方を考えることに本質的意義がある。つまり、社会的事象の見方・考え方とされる、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係（社会科の視点）で社会生活における人の営みを捉え、関係性を見いだす学習は、社会科を学ぶ本質的意義と重なるといえる。そして、小学生が自らの生活を支えてくれている社会に目を向け、自らの関わり方を考えることは、社会を維持、発展させることができる将来の主権者を育成することにつながる。

## ② 「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

本校社会科では、「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿と、協働的に学ぶ姿を次のように捉えた。

「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して（社会科の視点）、目的に応じて必要な事実を既有知識や資料から取り出し、それらを結び付けて関係性や、社会と自分との関わりを見いだしている。

協働的に学ぶ姿

異なる事実や考え、見方・考え方をもった者同士が、問題解決という共通の目的に向けて、考えを表出したり、聞いたりして補完・修正、再構成することを繰り返している。

| 過程       | 学習活動                      | 「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿                                          | 協働的に学ぶ姿                                                              |
|----------|---------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| つかむ      | 社会的事象との関わりを話し合う           | 学習問題の解決に必要な事実を既有知識の中から社会科の視点で選択し、予想の根拠とする。                | 自らの知識の不確かさを自覚し、予想や理由を自らの考えとして表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正し、学習の見通しをもつ。 |
|          | 学習問題をつかむ                  |                                                           |                                                                      |
| 追究する     | 予想をもち、学習計画を立てる            | 必要な事実を社会科の視点で調べ、調べた事実や既有知識を結び付けて共通点や相違点、変化の傾向などの関係性を見いだす。 | 自らの考えを表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正、再構成することを繰り返す。                      |
|          | 予想の検証に向けて、調べる             |                                                           |                                                                      |
| まとめる・生かす | 社会的事象の特色や相互の関連、意味について話し合う | 必要な既習知識を社会科の視点で選択し、社会への関わり方や価値を見いだす。                      | 自らの考えを表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正、再構成することを繰り返す、社会への関わり方を決める。         |
|          | ※学習計画に応じて点線内を繰り返す         |                                                           |                                                                      |
|          | 学習問題の結論をまとめ、学習成果を振り返る     | 必要な既習知識を社会科の視点で選択し、社会への関わり方や価値を見いだす。                      | 自らの考えを表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正、再構成することを繰り返す、社会への関わり方を決める。         |
|          | よりよい社会に向けて、自らの関わり方を考える    |                                                           |                                                                      |

図2 本校社会科の問題解決的な学習における、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

上記のような、子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿が表れるように、これまでの学習指導の工夫に加えて、以下のような学習指導の工夫を行う。

### （2）学習指導の工夫

問題解決の必要感を基にした学習問題の設定（ア）

子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことを促すためには、必要感をもって問題解決できるようにすることが大切である。「見方・考え方」と必要感の関係を次頁のように捉えた。問題

解決の必要感をもつと、社会的事象をより注意深く捉えようとして「見方・考え方」を働かせる。「見方・考え方」を働かせることで、自らと社会との関わりが見えてくるので、問題解決の必要感が増す。このことから、学習問題をつかむ前に、子どもが社会的事象に対して既有知識を想起し、自らとの関わりを認識し、学習内容の大まかな見通しをもつことにより学習の目的やその重要性を見だし、必要感をもてるようにすることが大切であると考えた。そこで、これまでは子どもたちの疑問や調べたいことを焦点化して設定していた学習問題について、今年度は、既有知識を想起し、それによって生まれた問題解決の必要感を基にした学習問題の設定を行うこととした。なお、既有知識を想起する活動は、学習内容を考慮し、大単元や中単元の導入において以下の手順①～④で行うこととする。

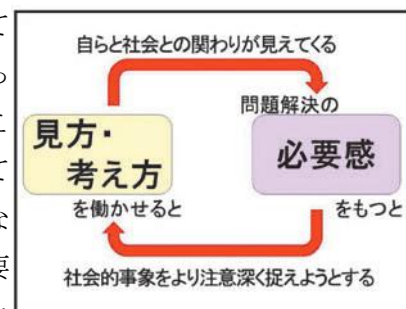


図3 「見方・考え方」と必要感の関係

学習問題について、今年度は、既有知識を想起し、それによって生まれた問題解決の必要感を基にした学習問題の設定を行うこととした。なお、既有知識を想起する活動は、学習内容を考慮し、大単元や中単元の導入において以下の手順①～④で行うこととする。

#### 既有知識を想起できるようにする手順と留意点

##### ①社会科を学ぶ本質的意義から大単元で学習する内容を捉える。

○主に環境と人々の生活との関わり

例 ・まちづくりの特色 ・地理的環境の概要と人々の生活の関係 など

○主に過去の出来事と現在とのつながり

例 ・先人の業績 ・過去の出来事が現代に与えた影響 など

○主に現代社会の仕組み

例 ・生産と販売の仕組み ・地域の防災、保安の仕組み ・産業の仕組み など

##### ②親近感や危機感、怒りなどの感情をもたせる資料を提示したり、体験活動を設定したりする。

##### ③社会的事象と自らの関わりや社会における重要性などを図や文などで説明する機会を設定する。

##### ④図や文の内容を共有できるようにする。

なお、上記の活動中の子どもたちの思いや疑問等を教室内に提示しておくことで必要感をもち続けられるようにする。また、大単元や中単元の終末で子どもたちが社会との関わりを考える学習活動を行う際に、社会的事象と自らの関わりや社会における重要性などを図や文で説明することを再度行う機会を設定することで、自らと社会との関わりについて学習したことの価値を認識できるようにする。

そして、上記のようにして既有知識を想起した上で、学習問題を設定していく。学習問題に含ませる要素とその効果は以下のとおりである。

| 要素                                                 | 効果                                                                                           |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア 子どもの実態、生活経験に合っていること<br>イ 解決した結果と社会とのつながりが考えやすいこと | 子どもが学習内容を自らと関係があるものと捉え、より注意深く資料を調べたり、これまでの学習とのつながりを考えたりすることができる<br>→ 後に、「見方・考え方」を働かせる学びを生み出す |
| ウ 一人では解決が困難な問題であること<br>エ 個々の価値認識の違いが反映されやすいこと      | 子どもが自らの知識の不確かさを自覚することを促し、対話を行う必然性をもてるようにすることができる<br>→ 後に、協働的な学びを生み出す                         |

具体例 3年 「はん売のしごと」(大単元「わたしたちのくらしと生産、販売の仕事」)

### 既有知識を想起できるようにする手順

①社会科を学ぶ本質的意義から大単元で学習する内容を捉える。

**具体例** 現代社会の仕組みや働きと人々の生活に関する内容であり、需要に合わせて生産活動と供給活動を行うという経済の基本を学習する単元であると捉える。

②親近感や危機感、怒りなどの感情をもたせる資料を提示したり、体験活動を設定したりする。

**具体例** 生活に必要な野菜や鉛筆の写真を提示し、知っていることを問いかける。

③社会的事象と自らの関わりや社会における重要性などを図や文などで説明する機会を設定する。

**具体例** 野菜や、鉛筆の生産方法や自分たちの下に届くまでの過程を図で説明する機会を設ける。

④図や文の内容を共有できるようにする。

**具体例** 発表内容を模造紙に書き、生産方法や過程について不確かな所と、生産、販売の仕事と子どもの生活との関わりについて問いかける。模造紙は大単元の学習が終了するまで掲示しておく。

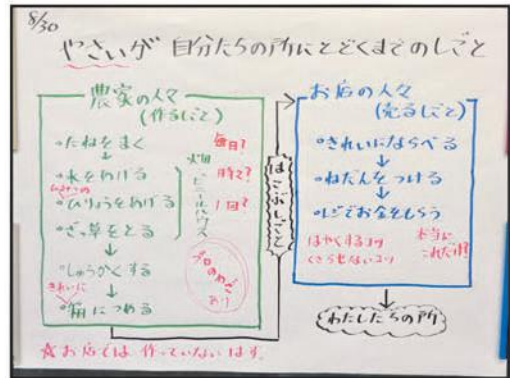


図4 想起した既有知識を共有できるようにした掲示物

### 学習問題を設定する手順

①学習内容について、既有知識を問いかける。

**具体例** 知っている商店の名前を発表する機会を設定する。 **要素ア** **要素イ**

②既有知識では説明できなかったり、矛盾を感じられたり、驚きがあったりする資料を提示したり、体験する機会を設定したりする。

**具体例** 数値的に驚きのある資料として、「食料品を買った店と商品調べ」の結果をまとめたものを提示する。 **要素ウ**

③疑問や調べたいことを話し合うよう促し、発表内容を整理して板書する。

**具体例** 「なぜ、たくさん客が来るのか」→「どんな工夫をしているのか」のように子どもの疑問や調べたいことを「工夫」に焦点化しながら板書する。 **要素エ**

④キーワードを基に、学習問題の文言を整える。

### 学習問題

たくさんのお客さんに来てもらえるように、スーパーマーケットではどのようなことをしているのだろう。

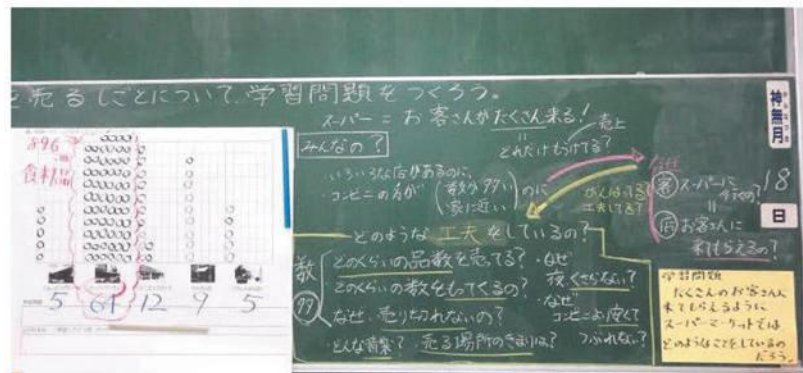


図5 学習問題を設定した際の板書

## 資料の読み取りの視点を含んだ教材，教具の用意（イ）

子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことを促すためには，問題解決に必要な事実を既有知識から想起したり，資料から取り出したりすることを容易にすることが必要である。そこで，資料の読み取りの視点を含んだ教材，教具の用意を行う。教材，教具とは，学習プリントに加え，資料や板書なども含む。資料の読み取りの視点とは，問題解決に必要な事実を既有知識や資料から取り出すための視点である。なお，資料の読み取りの視点を含ませる方法は，資料に色付けをしたり，並列に提示したりして，資料に加工を施す方法や，学習プリントの読み取ったことを記述する枠組みに，時間や方位などの視点を示しておく方法が考えられる。

### 具体例 5年「工業生産と工業地域」

**本時のねらい** 工業地域が立地する場所の特色を地形，気候，交通の面から明らかにする。

**働かせる社会的な見方** 工業地域の分布や平地，山地，交通が集中する場所に注目する。

**働かせる社会的な考え方** 工業地域の分布と地形，気候区分，交通の分布とを関連付ける。

**読み取りの視点を含ませるための方法** 工業地域の分布図に地形図や交通図を並列で提示する。

〈工業地域の分布〉



〈日本の地形図〉



〈交通網の分布〉



工業地域は太平洋側に多いな。大きな港が近いし，冬に降雪量が少ないから生産や流通がしやすいのだと思うな。

## 5 実践例 4年「特色ある地域の人々の暮らし ～おりもののまち桐生市～」

### （１）単元の構想

本校社会科において目指す資質・能力の育成に向け，子どもたちはこれまでに，4年「群馬の伝統～上三原田の歌舞伎舞台～」で上三原田の歌舞伎舞台の保存・継承に関わる人々の取組を年表や地図，各種の資料で調べ，そこに込められた願いを考える学習に取り組んできた。このような子どもたちが，本大単元（桐生市，片品村，大泉町）において，それぞれのまちづくりの取組を調べ，まちの発展と関連付けてまちづくりの特色を考えていく。その中の小単元，「おりもののまち桐生市」において，桐生市の人々が桐生市ならではの特色である桐生織を生かしてまちづくりに取り組み，観光客の増加など，まちを発展させていることを明らかにするために「見方・考え方」を働かせて協働的に学び，目標となる資質・能力を育むことができるよう，以下のように単元を構想した。

大単元の導入では，群馬県の諸地域のまちづくりについて既有知識を想起する活動を設定した。

| 時間 | 学習活動                                                                                    |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | <p>○県内の地域ごとの様子の違いについて話し合う。</p> <p>大単元の学習問題</p> <p>群馬県のそれぞれの地域ではどのようなまちづくりをしているのだろう。</p> |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                               |                                                                                   |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 目標           | 桐生市のまちづくりについて、各機関が発行するパンフレット、年表、地図等で調べ、桐生市のまちづくりの特色を考え、表現することを通して、桐生市に住む人々が協力して特色あるまちづくりに努めていることを理解する。                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                               |                                                                                   |
| 評価<br>規<br>準 | (①知・技) 桐生市の人々が、桐生織や織物に関連する工場や蔵等の地域の資源を協力して保護・活用して特色あるまちづくりに努めていることを理解する。<br>桐生市の様子について、各機関が発行するパンフレットや年表、地図等の資料で調べ、まとめている。<br>(②思・判・表) 桐生市の様子について、関連機関の取組と桐生市の発展とを関連付けたり、前橋市と比較したりして、まちづくりの特色を考え、表現している。<br>(③主体的態度) 桐生市の様子について、桐生織や織物に関連する工場や蔵等の保護・活用に取り組む桐生市の人々の取組に関心をもち、学習問題や予想、学習計画を立て、意欲的に調べようとしている。 |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                               |                                                                                   |
| 過程           | 時間                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 学習活動と子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ場面                                                                                                                                                                   | 見方・考え方を働かせて学ぶ姿                                                                                | 協働的に学ぶ姿                                                                           |
| つかむ          | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生市の様子について話し合い、桐生市のまちづくりに問題意識をもつ。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           学習問題<br/>           織物業がさかんな桐生市では、だれがどのようにしてまちづくりに関わっているのだろう。         </div> | 学習問題の解決に必要な事実を既有知識の中から社会科の視点で選択し、桐生市の人々の取組についての予想の根拠とする。                                      | 桐生市の人々の取組について、自らの知識の不確かさを自覚し、予想や理由を自らの考えとして表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正し学習の見通しをもつ。 |
|              | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生市の人々が行っているまちづくりに対する取組について予想し、学習計画を立てる。<br><調べる内容>・桐生織の歴史や技法<br><調べる観点>・桐生織を作る人々の取組<br>・桐生市の企業や地域の人々の取組<br>・桐生市役所の取組                                                                           |                                                                                               |                                                                                   |
| 追究する         | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生織の歴史や技法を調べる。                                                                                                                                                                                  | 予想の検証に向けて、桐生市の人々の取組について必要な事実を社会科の視点で調べ、調べた事実や既有知識を結び付けて共通点や相違点、変化の傾向などの関係性や価値を見いだして、自らの考えとする。 | 桐生市の人々の取組について、自らの考えを表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正、再構成することを繰り返す。                     |
|              | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生織を作る人々の取組を調べる。                                                                                                                                                                                |                                                                                               |                                                                                   |
|              | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生市の企業や人々の取組について調べる。                                                                                                                                                                            |                                                                                               |                                                                                   |
|              | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生市役所の取組を調べる。                                                                                                                                                                                   |                                                                                               |                                                                                   |
| まとめる・生かす     | 1                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○桐生市の人々のまちづくりの取組をまとめ、学習問題の結論を出す。                                                                                                                                                                 | 学習問題の結論をまとめるために必要な桐生市の人々の取組についての具体的知識を既習内容の中から社会科の視点で選択し、それらを結び付けて関係性や価値を見いだして自らの考えとする。       | 桐生市のまちづくりの特色について、自らの考えを表出したり、他者の考えを聞いたりして、考えを補完・修正、再構成することを繰り返す。                  |

図6 4年「おりもののまち桐生市」における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

なお、本単元において子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿を促す学習指導の工夫を以下のように具体化して設定した。(ゴシックは本年次研究における学習指導の工夫)

|                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;「つかむ」過程&gt;</p> <p>○問題解決の必要感を基にした学習問題の設定(ア)</p> <p>○調べる観点、予想、調べる方法を一覧にした学習計画の作成と活用</p> <p>&lt;「追究する」・「まとめる・生かす」過程&gt;</p> <p>○資料の読み取りの視点(時間の経過による変化、関連機関相互の関係など)を含んだ教材、教具の用意(二次元表、ベン図、関係図、地図や写真の並列提示 など)(イ)</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

（２）学びの実際 ※Nは抽出児，Cはその他の子ども。~~~~は「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿

### ① 「つかむ」の過程（大単元の導入～第２時）

大単元の導入で，子どもたちの住む前橋市のキャラクターころとんや，市が中心となり行っている豚肉を使った料理コンテストの様子，学校行事で訪れた富岡市の蚕や繭を形取ったお菓子，外装が歴史的景観に合わせてあるコンビニエンスストアの写真を見た子どもたちは，前橋は豚肉が有名なこと，富岡市のコンビニエンスストアが世界遺産の景観を壊さないようにしていること，富岡製糸場と関係させた物が多いことなど，各市のまちづくりについて話し合った。次に，市町村ごとのまちづくりについて知っていることを群馬県白地図にまとめ，感想を伝え合った。すると，自分たちが住んでいる群馬県なのによく知らないという自らの知識の不確かさを実感した子どもの発言を受け，Nは，「前橋もそうだけど，みんな自分の住んでいるまちをよくしようとしているはず。どんなまちづくりをしているのかな。」と発言した。周りの子どもたちも，それをうなずいて聞いていた。そして，まちづくりと自らとの関わりを認識し，大単元の学習問題「群馬県のそれぞれの地域ではどのようなまちづくりをしているのだろう」を立て，諸地域のまちづくりの特色を明らかにするという学習の大まかな見通しをもった。

第１時で，子どもたちは，のこぎり屋根の様子などから桐生の織物工場に興味をもった。さらに，県内の12市の繊維業の生産額等の一覧を見た子どもたちは，上毛かるたの「桐生は日本の機どころ」という読み札を想起し，桐生市が織物業が盛んであることを再認識した。次に，桐生市の観光客数の過去23年の推移のグラフを見た子どもたちは，観光客が年々増えていることや織物との関係について発言した。これらの発言に対してNは，「なぜ，平成13年のところは急に増えているのかな。

何をしたのだろう。」と発言し，子どもたちは桐生市の人々の取組と観光客の増加というまちの発展との関連に問題意識をもった。そして，小単元の学習問題「織物業がさかんな桐生市では，だれがどのようにしてまちづくりと関わっているのだろう。」をつかんでいった。

第２時で，桐生織の製品や織機，桐生市の街並みやそこで行われているイベント，桐生市のキャラクターやポスターなどの写真を見た子どもたちは，学習問題に対する予想を発言した。それは，観光



図7 各地のまちづくりについての既有知識をまとめた白地図

| 繊維工業 県内12市別 生産額（平成29年実績） |      |         |           |
|--------------------------|------|---------|-----------|
| 従業者4人以上                  |      |         |           |
|                          | 事業所数 | 従業者数(人) | 生産額(万円)   |
| 前 橋 市                    | 20   | 462     | 327,086   |
| 高 崎 市                    | 17   | 189     | 129,125   |
| 太 田 市                    | 32   | 472     | 605,162   |
| 伊勢崎市                     | 21   | 551     | 863,911   |
| 桐 生 市                    | 116  | 1,307   | 1,580,801 |
| 渋 川 市                    | 4    | 83      | 33,489    |
| 館 林 市                    | 14   | 213     | 156,014   |
| 藤 岡 市                    | 3    | 50      | ×         |
| 安 中 市                    | 7    | 114     | 133,103   |
| みどり市                     | 16   | 229     | 371,743   |
| 沼 田 市                    | 3    | 27      | 22,611    |
| 富 岡 市                    | 2    | 31      | ×         |

×のところは非公開  
参考資料：群馬県の工業（群馬県統計課）

図8 県内12市の繊維業の生産額等

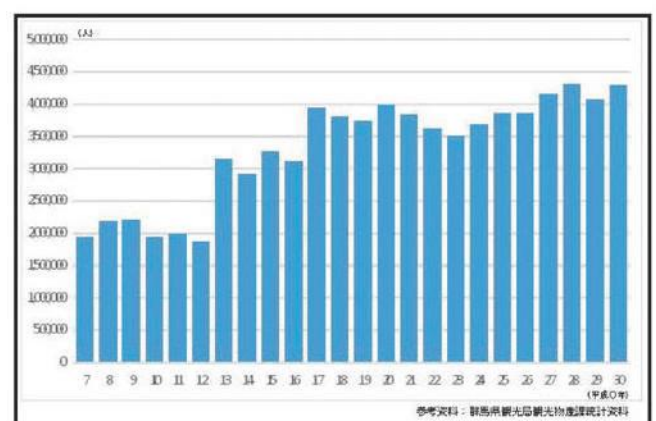


図9 桐生市への観光客数の推移

客が増えたときに誰かがイベントを開いたのではないかと、作っている人たちは手間をかけて織物を作り続けているのではないかといったものだった。それらの発言を聞いたNは、

「桐生織を作っている人が、昔ながらの伝統を守っていると思う。上三原田でも歌舞伎舞台を残し続けて、動かすときに観光客がたくさん来ていたよね。」

と発言した。Nは、桐生織と前単元で学習した上三原田の歌舞伎舞台について、時間の経過という社会科の視点で見た際に、「伝統を守る」という点が共通していることから、それを問題解決に必要な事実として、自らの予想の根拠にしたといえる。この姿は「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿であるといえる。このような発言に対し、他の子どもたちも共感していた。そこで教師は、大単元の導入での活動をまとめた模造紙や学習問題を再度見直すよう促した。すると、学習問題の「まちづくり」という部分から、まちづくりと人々の取組との関わりを考えるという意識をもった。こうして、各自の予想を基に、以下のような学習計画を立て、**1**から順に追究していくこととした。

| 調べる内容・観点                   | 予想                        | 調べる方法                   |
|----------------------------|---------------------------|-------------------------|
| <b>1</b> 「桐生織の歴史や技法」       | すごく昔からありそう<br>特別な織り方がありそう | パンフレット、桐生織に関わる年表、桐生織の実物 |
| <b>2</b> 「桐生織を作る人々の取組」     | 昔からの伝統を守って、まちづくりに生かしていそう  | パンフレット、桐生織に関わる年表        |
| <b>3</b> 「桐生市の地域の企業や人々の取組」 | イベントを開いて、観光客を増やしていそう      | 桐生市のHP、桐生商工会が発行したパンフレット |
| <b>4</b> 「市役所の人々の取組」       | 桐生織やイベントのお知らせをしていそう       | 桐生市のHP、市役所が発行したパンフレット   |

## ② 「追究する」の過程（第3～6時）

第3時では、桐生織の歴史や技法などを、桐生織に関わる出来事の年表や関連機関が発行するパンフレットで調べた。桐生織は約1300年の歴史があること、新田義貞や徳川将軍家といった歴史的に有名な人物や、その人物に関わる出来事とも関係があること、織り方には七つの技法があり、触り心地が違ったり、繊細な模様を生み出したりすること、国指定の伝統的工芸品となる物があることなどを明らかにした。そして、子どもたちは桐生織の価値とそれを作る人々の取組への関心を高めていった。

第4時では、桐生織を作る人々の取組の観点から、桐生市のまちづくりを追究していった。前時の学習内容を問いかけると、約1300年の歴史、七つの技法、織機や製品の種類についての発言があった。そして、Nの「きっと伝統を受け継ぎ守っているから、作るものを変えない方がいいよね。洋服やカーテンなどの昔ながらでないものを作っているけど、それはまちにとってよくないのではないかな。」という疑問を基に学級全体で追究への意識を

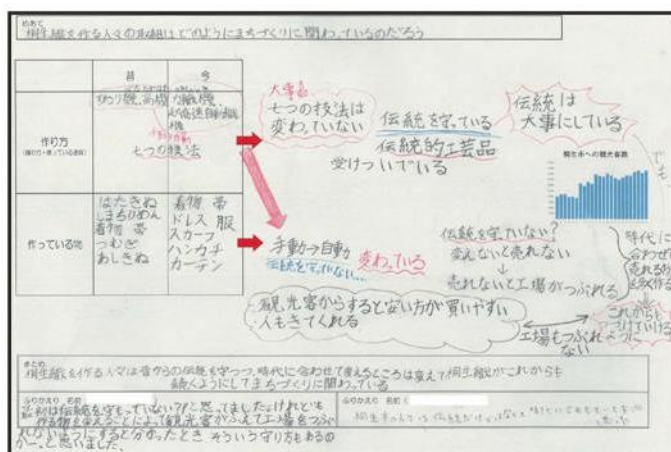


図10 第4時で用いた二次元表

高めていった。そして、めあて「桐生織を作る人々の取組はどのようにしてまちづくりと関わっているのだろう。」をつかんだ。そして、Nのペアは二次元表を含んだ学習プリントに、桐生織を作る人々の取組について昔と今の変化を書き込み、その傾向を話し合った。

N：昔と今を比べると、昔も今も七つの技法は変わっていないけど、織機は変わっているよ。手で動かしていたのが、自動に変わっている。

C：本当だ。着物や帯のように変わっていない物があるね。伝統を守っている感じがする。

N：確かに。変えていないことで伝統を守っているということだね。

でも着物だけでなく、ネクタイやカーテンを作るようになっていっているよね。変えてしまったら、伝統を壊してしまいそう。まちにとってよいことがなさそうだけど、なぜ変えたのだろう。



図11 Nのペアが話し合う様子

そこで教師が、桐生市の観光客の推移を表すグラフに着目するよう促すと、変えたこと、変えないことの原因や桐生織を作る人々の取組とまちづくりとの関連を考え始めた。

N：伝統を守っているからとても価値があって、伝統的工芸品なんだよ。価値のあるすごい織物なら、たくさんの人が買いに来るし、すごい織物を作っている市として、桐生市が有名にもなる。でも、変えてしまうと伝統を壊すことになって、観光客も減ってしまうよね。

C：例えば着物を着ている人を見かけるかな。私はあまり見かけないよ。だから、伝統的で高級な着物だけ作っていても、あまり買ってもらえなくなってしまうと思うよ。

N：確かにね。だから昔と今で作る物を変えて売れるようにしているのか。売れなければ桐生織を作っていけなくなってしまう。だから、変えることで桐生織を続けていけることになるのか。

C：これは、伝統を続けることで守るということになるのではないかな。

N：伝統の桐生織がなくなったら、桐生市の人にも観光客にもよくないよね。桐生織を作る人は新しいものを作ることで伝統を守っているともいえる。そうすれば、価値がある桐生織をたくさんの人に買ってもらえるから観光客を集めることにつながるのだね。

以上のように、Nは時間の経過という視点で捉えた桐生織を作る人々の取組を昔と今で比較することを通して、取組を変えていることと変えていないことがあることを捉えた。そして、Cとの対話を通して、それらとまちの発展とを関連付け、考えを補完・修正、再構成し、桐生織の製品や作り方を変えることも伝統を守ることになり、観光客を集めることにつながると気付いた。この姿は「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿であるといえる。そして、Nは、「桐生織を作る人は、昔からの伝統を守りつつ、変えるところは変えて、これからも桐生織が続いていくようにしてまちづくりに関わっている。」とまとめた。

第6時では、桐生市の地域の企業や住人の取組を商工会が発行するパンフレットや広告から調べ、その取組をベン図に整理した。子どもたちは調べた事実から、地域の企業も歴史ある建物を店舗として再利用したり、桐生織の紋様を使った商品売り出したりするなど、桐生織とその伝統を活用してまちに人を呼び寄せようとしていることを見だし、「桐生市の地域の企業や人々は、伝統的なもの

を生かし、人が集まるようにしてまちづくりに関わっている。」とまとめた。

第7時では、市役所の人々の取組を、桐生市のホームページや、市が発行する便りから調べた。織物を作る人々へは、後継者育成への資金援助、地域の企業や人々へは、重要伝統的建造物保存地区の指定、イベント開催への資金援助やPRなど、それぞれの取組に援助をしていることから相互の関係をつかんだ。そして、「市役所の人々の取組は、資金援助などのサポートをして、まちづくりに対する取組がしやすくなるようにして、まちづくりに関わっている。」とまとめた。

### ③ 「まとめる・生かす」の過程（第7時）

第7時では、追究によって明らかになったことを総合し、学習問題の答えを出すために、これまでの学習プリントを見返して桐生市の人々の取組とまちづくりとの関わりについて話し合った。Nのペアは桐生市の人々の相互関係の視点でこれまでのまとめを見直し、必要な事実を関係図に整理しながらまちづくりの特色を考えた。そして、「織物がさかんな桐生市では、伝統ある桐生織を中心に、様々な立場の人が支え合ってまちづくりを行っ

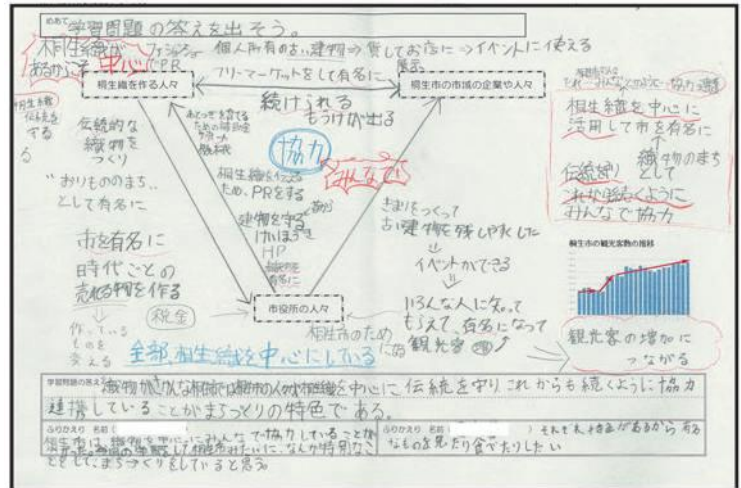


図12 第7時で用いた関係図

ている。」と学習問題の答えを導き出した。そしてNは振り返りに「桐生市は人々が協力して伝統を生かしたまちづくりをしていることが分かった。他の地域も何か特別なことをしてまちづくりをしていると思う。」と記述した。このことからNは、桐生市の人々の取組とまちの発展とを関連付けて考え、伝統ある桐生織を中心にした桐生市ならではのまちづくりの特色を見いだした。これは、伝統的な物や地場産業が盛んな地域では、それを中心にしたまちづくりを行っているという概念的知識を獲得できた姿といえる。

新型コロナウイルス拡大防止のための臨時休校により、大単元の終末までの実践を行えなかった。実践の途中でNは、「桐生市は桐生織の伝統を守ったり生かしたりしていたけど、片品村は自然をうまく使っているから尾瀬やスキーに来る人が多いのだね。」と発言していた。このことから、Nがそれぞれの地域が、その土地ならではのものを生かしてまちづくりを行っているという概念的知識を獲得しつつあると捉えられる。また、前橋市ならではのまちづくりについて、もっと知りたいという発言もあった。ここからは、住んでいる地域の一員としての自覚をもちつつあることがわかり、社会への関わり方を見いだそうとしていると考えられる。これらの姿は、Nが大単元を見通した学習問題の設定によって問題解決の必要感をもち、資料の読み取りの視点を含んだ学習プリントを活用し、「見方・考え方」を働かせて協働的に学んだ成果であるといえる。

## 6 成果と課題

本校社会科における問題解決的な学習の中で、「社会的事象への深い理解を基に、自ら社会参画する資質・能力」の育成に向け、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶことに焦点を当てて研究を進めてきた結果、次のような成果と課題が明らかになった。

- 問題解決の必要感を基にした学習問題の設定を行ったことで、「追究する」過程の振り返りにおいて、自分なりの理解や、社会の仕組みや人物やその働きへの関心や驚きなどの価値認識を表す記述が見られた。これは、子どもが社会的事象を自らと関係のあるものと捉え、必要感をもって学習に取り組めたからである。また、資料の読み取りの視点を含んだ教材、教具の用意を行ったことで、資料から問題解決に必要な事実を的確に取り出し、それを基に自らの考えを繰り返し友達に伝える姿が見られた。これは、資料から必要な事実を社会科の視点で取り出し、調べた事実や既有知識と結び付けて関係性や価値を見いだすことができたからである。
- 問題解決的な学習の中で、子どもは自らの考えを補完・修正し、知識を構造化して考えを確かにした。そして単元を通してそれを繰り返すことで、概念的知識を獲得し、それを活用して自らの社会への関わり方を考えることができた。このことから、子どもが「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ姿を促す学習指導の工夫により「社会的事象への深い理解を基に、自ら社会参画する資質・能力」の育成につながったと考えられる。
- 資質・能力のさらなる育成のためには、振り返りによって「見方・考え方」を働かせた自覚を促すことと、教師による価値付けの充実により、子どもが「見方・考え方」を鍛え、より多様にしていくことが必要である。その際、振り返りを行う場面を精選することや、価値付けの方法を工夫することが、有効であると考ええる。

### 【参考文献・資料等】

- ・文部科学省『学習指導要領解説 社会編』平成30年2月，日本文教出版。
- ・澤井陽介『小学校新学習指導要領 社会の授業づくり』，明治図書，平成30年4月。
- ・澤井陽介，加藤寿朗『見方・考え方【社会科編】』，東洋館出版社，平成29年10月。